

『千葉市動物公園のご紹介

～動物園の歴史的経緯や課題、社会的役割を踏まえた
再生・発展への取り組みについて～』

千葉市動物公園 園長 箇木一誠

【レジュメ】

1. 千葉市動物公園の概要

- 1985年(昭和60年)4月 公設公営施設として開園
- 設立の目的
「人間の生活にかかわりのある動物とのふれあいを通じて、楽しみながら自然に動物の生態を学べる家族ぐるみの、レクリエーションの場として整備」
～動物園が持つ機能に、公園的要素を加え、市民の憩いの場として設立～
- 特徴
 - ① 特徴ある飼育・展示動物 104種 539点 ※令和5年12月末時点
 - ・ワシントン条約附属書Ⅰ類・Ⅱ類対象種が約半数
 - ・我が国屈指の霊長目の飼育数20種
 - ～園のシンボルマークは絶滅危惧種ゴリラ
 - 我が国における千葉市の所有個体:6/20頭
 - ・チーター(7頭)をフランス・ノルウェー・チェコから導入(令和2年)
 - ～新たな血統導入による繁殖貢献～
 - ・レッサーパンダ 風太が20歳に(令和5年7月)
 - ～動物福祉をテーマとしたクラウドファンディングの実施～
 - ② 世界動物園水族館協会(WAZA)直接加盟園
 - ～日本での直接加盟は10団体のみ～
 - ③ 緑豊かで広大な公園:管理面積 約34万m²(東京ドームの約7倍)
 - ～100種超の樹木・桜の名所～
- 再生への取り組み
 - ① 2014年(平成26年)再生基本プラン「リスタート構想」公表
“開園50周年(2035年・令和17年)年間来園者数100万人をめざす”
 - ② 新たなゾーニング(生息環境+地域の組合せ)による再整備
平原ゾーン・湿原ゾーン・森林ゾーン
子どもゾーン(ふれあい動物の里)・大池

平成28年:ライオン導入・展示場オープン
平成30年:ミーアキャット展示場リニューアル
令和2年:チーター・ブチハイエナ導入・展示場オープン

- 令和 3年：シマウマ・ヤマアラシ展示場オープン
※平原ゾーンの新規整備完了
- 令和 4年：動物科学館改修設計（テーマ：熱帯雨林）
- 令和 5年：湿原・森林ゾーン基本計画策定
（公財）イオン環境財団と連携協定締結
“大池”生態調査・整備計画策定着手
動物科学館改修着工（テーマ：熱帯雨林）
※令和7年春リニューアルオープン予定
なぜ動物園が“熱帯雨林”をテーマに？
「熱帯雨林を知り、学び、ともに共存する」

2. 動物園ってなんだ？

➤ 動物園の歴史的経緯

王侯貴族・特権階級の珍獣収集の歴史

～大航海時代・植民地主義・帝国主義のかげりをまとう～

“メナジェリー” から “ZOO” へ

ヴェルサイユ禽獣園

シェンブルン禽獣園

フランス国立自然史博物館

ロンドン動物園

近代動物園の2大条件

- ① 王侯貴族・特権階級からの脱却・市民への開放
- ② 科学的基盤

→ “支配の誇示”から“世界のあり様を考える機会の提供”
“生態的展示（生息環境展示・行動展示）”
“保全センター”

動物園 = 生物学の博物館

➤ 我が国における動物園の歴史

慶応2年（1866年）

福沢諭吉「西洋事情」において“動物園”の名称が初登場

明治5年（1872年）

初の博覧会開催 @東京・湯島聖堂大成殿

～令和4年 東京国立博物館創立150周年の起点

明治6年（1873年）

「大博物館創設の建議」

明治15年（1882年）

博物館附属施設として「上野動物園」開設

我が国の動物園の果たしてきた役割

～子育て支援・思い出づくりと動物の存在を確認する場～

➤ 動物園の課題

法的位置づけの希薄さ(法律上の定義なし)

展示・経営等の持続と・保全等への貢献

“動物園の動物はどこから?”

“動物福祉”(動物の心身の状態)の向上

SDGs・ネイチャーポジティブ 等への主体的取り組み 他

➤ 動物園の社会的役割

「種の保存」「調査・研究」「教育・環境教育」「レクリエーション」

“動物福祉”(動物の心身の状態 QOL 向上)

“環境エンリッチメント”

(動物福祉の立場から、飼育動物の“幸福な暮らし”を実現するための具体的な方策)

“科学的基盤(評価)”

➤ 動物園とは・・・

① 生物多様性の保全の実践の場 “生息域外保全”

② 生きた野生動物の展示を通して、

・野生動物の体の仕組みや生態の魅力を伝える

・動物や自然に関する文化・芸術・科学に触れる

・生物多様性や共生の重要性、命を取り巻く課題、野生動物を含む

自然環境、ひいては地球全体を守る事への気づきや関心、学びに繋がる

情報の発信と体験を提供する“生涯学習の場”

3. 千葉市動物公園の基本方針

「驚きと感動、憩いと癒し、学びの場としての発展」

～動物園としての4つの役割の発展と公園機能の充実による再生～

① 科学的視点を基盤に“調査・研究”、学びを核とした成長

② 時代に即した発展の志向

③ 新たな顧客体験の創出

④ 他施設・他団体(学校・学術団体・企業など)との連携強化

4. 主な取り組み事例の紹介

4-1 「共創」「協創」をテーマとした新たな寄付制度の導入 「amazon ほしい物リスト」

4-2 ICT の活用 インターネットと先端技術の活用による新たな動物ガイドの構築と
新たな教育カリキュラムの開発

～院内学級・様々な福祉施設向けプログラムの創出～

4-3 企業・学術団体との連携による新たな価値創造(実証実験から実装へ)

① AIを活用した動物生態の見える化

② 自動運転技術の活用

- ③ 環境エンリッチメントへのIoT活用 “Cybernetics in ZOO”
- ④ 環境低負荷システムの開発
- ⑤ 来園者動向のAI分析による来園者サービスの向上と経営改善
- ⑥ 糞尿処理のエコ化
- ⑦ ゴミ箱のスマート化 他

4-4 動物や自然に関連した文芸・芸術の体験

- ① 「動物園で浪曲」
 - ・文化庁芸術祭新人賞受賞浪曲師による「シートン動物記」の浪曲体験
- ② 「動物園で考古学」
 - ・現代の生活様式の礎に繋がる縄文人の生活の営みから学ぶ
 - ・古のヒトと動物の関係から、現代の課題を考える

4-5 集客施設と連携した新たな人流創出と回遊促進策の実施～

- ① JR・ペリエ・そごう・幕張新都心ホテル協議会他との連携イベント
- ② “「年間パスポート」連携パートナーシップ”

4-6 IT サービスやコミュニケーションツールの活用強化

SNS・YouTube・公式アプリ・LINE スタンプ 他

4-7 「調査・研究」「教育・環境教育」についての包括的活動強化

～園主体の取り組み強化と学校学術団体・企業等との連携拡大・深耕～
「アカデミア・アニマリウム」（“動物をめぐる学術の場”）の推進

4-8 その他

- ① 「屠体給餌プロジェクト」
 - 動物福祉×害獣問題による課題対策の具体化と学術検証
 - ～クラウドファンディングによる啓発活動と支援の呼びかけ～
- ② 「オンラインサファリ“Live Safari from South Africa”」
 - 動物園 “自然への入口”“動物の故郷へつながる場”
 - 南アとインターネットで繋ぎ、サファリをライブ体験
 - ～アフリカの今を体感し、課題を知り、必要な行動変容を起こす～
- ③ “ちばアントレプレナーシップ 教育コンソーシアム”
 - ～小中学生の起業家精神を育むプログラム提供～

より愛され、より親しまれる園を目指して！

ご支援とご協力をお願いするとともに、ご来園を心よりお待ちしております！

ご清聴ありがとうございました。

